

題目 「人馬一体」の定量化に向けた予備的検討

氏名 長瀬愛実

指導教員 瀧本彩加

あなたは他者と行動が合ったと感じた経験はあるだろうか。もし他者と行動が合ったと感じたことがあるとして、その相手がヒト以外の動物だったことはあるだろうか。ヒトの行動は、本人たちが気づかないうちにでさえ、同期することがある。また、ヒトにおいて行動同期は様々な心理的影響を及ぼすようである。この行動の同期はヒト以外での同種個体間でも見られ、その行動同期は同期した個体の心理や個体間の関係構築に影響する。加えて、ヒトと他の動物間でも行動同期は起こりうる。ヒトとヒト以外の動物との行動同期が、それらの個体の心理に作用することを示唆する知見もある。では、古くから密接なかかわりがあるヒトとウマではどうだろうか。先行研究には、ヒトとウマとの間で行動が同期しうることを示唆されたものがある（上田他, 2020）。この研究では、曳き馬をして歩行同期を検討していたが、曳き馬以上にヒトとウマが連動しうる状況が乗馬である。乗馬においてヒトとウマの相互作用の様態を表現した言葉の1つに、「人馬一体」がある。騎手が感じる「まるでウマと一体になったかのような感覚は、人馬一体感と呼ばれる。乗馬中のヒトとウマの行動同期がヒトの心理に及ぼす効果の1つとして人馬一体感をとらえることができる可能性がある。先行研究の問題点として、定量的な研究の枠組みで、行動同期と人馬一体を扱った研究はまだないこと、人馬一体感を生み出す要因間の関係性については議論されていないことが挙げられる。そこで本研究では、乗馬中のヒトとウマの行動同期と人馬一体との関係を定量化することを目指し、まずヒトとウマの行動同期の定量化手法を予備的に検討することを目的とした。扶助が行動同期に与える影響を調べるため、騎手が積極的に扶助を出す条件と、扶助を可能な限り抑制する条件を設定し、それぞれでの行動同期を定量し、それらの間に違いが見られるか目視により探索的に検討した。定量化した行動同期と、質問紙への回答を合わせて整理し、解釈することで、行動同期と人馬一体の関係についても議論を試みた。その結果、運動同期の指標として用いた相互相関関数の波形に、条件ごとに特徴的な形が見られた。これには、扶助の有無、または主観的な身体同期、もしくはその両方が関わっている可能性がある。